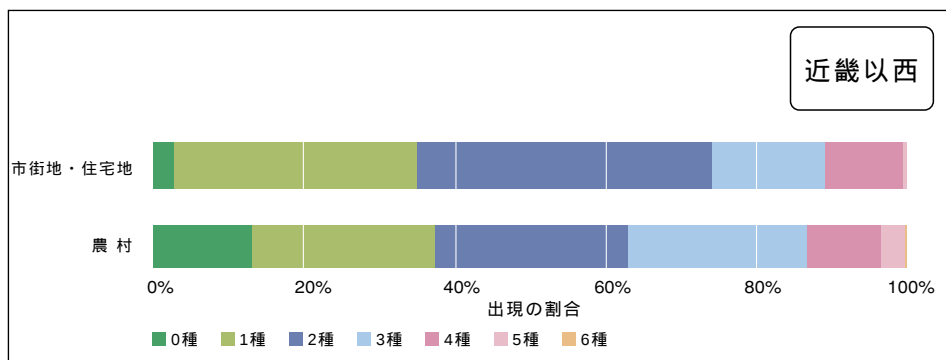
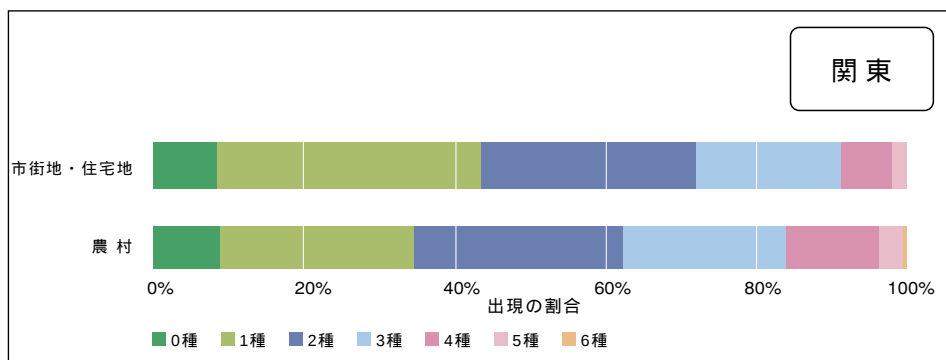
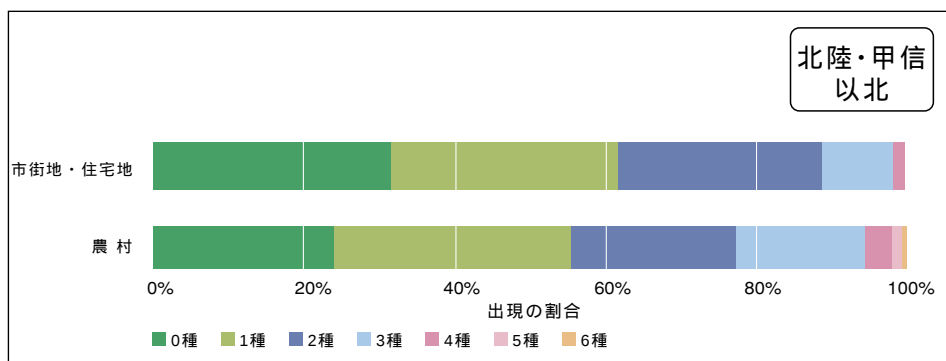


周辺環境との関係を詳しくみると、農村など自然が豊かな所にある林では、ヒグラシの出現する林が増え、さらに地域的には北陸・甲信以北ではエゾゼミやエゾハルゼミ、関東ではニイニゼミ、近畿以西ではニイニゼミやミンミンゼミの出現する林が増える傾向にあることがわかります。一方、市街地・住宅地など、周辺に自然がより少ない所にある林は、

アブラゼミしか見られないことが多いのですが、北陸・甲信以北ではニイニゼミ、近畿以西ではクマゼミが出現する林が増える傾向にありました。

また、地域別にまとめた周辺環境とセミの出現種数についてグラフをみると、どの地域でも農村ほど出現種数が多い傾向にあることが読みとれます。

周辺環境別にみたセミの種数ごとの割合



'95年以降にセミのぬけがらを送ってくださったみなさんへ

1995年の身近な生きもの調査では、セミをテーマにぬけがらを集め、セミの分布や初鳴日などの詳細な記録を収集するとともに、セミと遊んだ体験など、セミと日本人の付き合いの深さについて認識を深めることができました。

その時の調査期間は夏に限定されていたため、5～6月に成虫が出現する比較的発生が早いハルゼミや、チツゼミ・ヒメハルゼミなど、もともと数の少ない種の情報が不十分でした。そこで、情報が少なかったセミについては、ぬけがらの収集を継続してお願いしたところ、この身近な林調査までに、16名のみなさんが協力してくださいました。送っていただいたぬけがらは種の確認（同定）をした結果、ハルゼミについては関東地方の分布がいくつも追加されるという成果がありました。どのような調査でも少しずつ情報を積み重ねていくことは大切なことだと思います。

なお、環境省の緑の国勢調査の一環として継続してきました“セミのぬけがら調べ”ですが、今回の身近な林調査で多数の情報が集まったことから、この調査を持ちまして、一旦終了させていただきます。ご協力いただいたみなさんには、この場を借りて深く御礼申し上げます。

